

これからの 地域社会のために

川崎市議会議員(中原区)

いど清貴

きよたか



令和6年第2回市議会定例会

「令和6年第2回川崎市議会定例会」5月31日から開催され、6月25日に閉会しました。本定例会では議案24件、追加議案1件が提案され、約1ヶ月に渡り議論してまいりました。

本定例会では所属する「みらい川崎市議会議員団」の代表質問が6月11日に行われ、「全国都市緑化かわさきフェアの交通アクセスについて」や「教員不足解消に向けての取組について」の質問を行いました。

代表質問トピックス

全国都市緑化かわさきフェアの交通アクセスについて

質問 コア会場は、いずれも駅から遠く集客や回遊性に影響することが考えられる。シャトルバスの導入やレストランバスのようなものを走らせるなど観光と組み合わせることについて見解を伺います。

回答 会場までのルート上にある地域資源を楽しんでもらう取組を進めているため各会場間を結ぶバスは運行しないが、観光などのコンテンツとの組合せについて意見もあり、旅行会社等が企画する会場間をつなぐバスツアーについて現在調整を行っている。



教員不足解消に向けての取組について

質問 教員の未充足状況は、今年4月時点で131.5人と昨年より倍増した。応募倍率も小学校は1.7倍と2倍を下回り厳しい状況となっている。千葉県と千葉市が実施する「奨学金返済全額肩代わり制度」の導入は、教員希望者のインセンティブにもつながり、辞退者を減らす取組として大変有効と考えるが、見解を伺います。

回答 奨学金の返済支援をはじめとした支援策は、人材確保や人材支援の在り方についての検討を進める中で、他都市における取組状況や効果等について調査研究しできる限り速やかにその方向性を取りまとめる。



災害時支援物資受援体制の構築について

質問 能登半島地震発災当初から職員を派遣しているが、そこで得た知見及び教訓とした課題認識と、その後の市の対応を伺います。

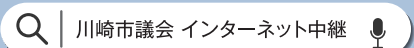
回答 担当した避難所は物資拠点も兼ねており、搬入規模、時間、内容等について事前連絡がなく、また搬入後の仕分けや在庫管理に多くの時間を要する等、物資拠点における災害時物流の課題を再認識した。対応としては、国、関係機関等と支援物資や道路啓開に係る情報共有、アクセス性・機能性の高い物流施設や輸送力を有する民間事業者との連携推進、石川県が作成する検証報告を参考としながら体制の実効性の確保に努める。

市バスの減便について(2024年問題への対応)

質問 バス運転手確保が厳しい状況は数年前から指摘されていたが、なぜ144便も減便という対応に至ったのか、あわせて今後の対応を伺います。

回答 この間、勤務ローテーションの見直しや職員採用の取組強化による運転手確保に尽力したが、運転手不足は解消せず減便に至った。減便後は、減便前後や他の時間帯のバスをご利用いただくケースもあるなど、お客様にはご不便ご迷惑をおかけすると考えており大変申し訳なく思っている。今後は運転手確保に向け、養成枠採用も含み、採用試験の在り方等の検討や取組を進め、その状況等も踏まえダイヤ改正を行う。

※代表質問、一般質問の発言は「川崎市議会 インターネット中継」でご視聴できます。



一般質問トピックス

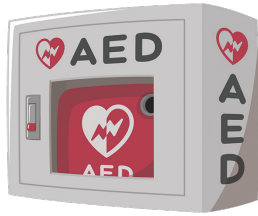
AEDの利用率向上に向けた取組について

質問 AEDを使える人を増やす取組が必要と考えます。千葉市のように受講日程を柔軟化し取得向上に向けた取組について検討すべきと考えますが見解と対応について伺います。

回答 応急手当普及員の確保は、市民の応急手当の知識、技術の習得による救命効果の向上に必要なことと認識しているところでございます。

現在、講習会は休日も含めて実施しているところでございますが、今後も他都市の実施方法などを研究しながら、市民ニーズに応じて柔軟に対応できるように、検討してまいります。

一般市民による心肺蘇生(AEDの使用を含む)実施による生存率	人数	割合
一般市民が目撃した心原性心肺機能停止傷病者数(全体数)	28,834人	—
①そのうち市民が心肺蘇生を実施した傷病者数	17,068人	59.2%
②心肺蘇生を実施したうち市民が除細動を実施した傷病者数	1,229人	4.3%



①の場合	人数	割合
1ヶ月後 生存者数	2,190人	12.8%
うち1ヶ月後 社会復帰者数	1,508人	8.8%

②の場合	人数	割合
1ヶ月後 生存者数	618人	50.3%
うち1ヶ月後 社会復帰者数	523人	42.6%

質問 千葉市では、子ども向けの救命士講習や応急手当ジュニアインストラクターの取組を行っています。大人だけでなく子どもでも使えるAEDが増えており、応急手当やAEDの理解が深まることで、子どもが緊急時に行動できるようになります。本市でも子どもを対象とした取組を充実させるべきと考えますが、見解と対応を伺います。



回答 子どもたちが応急手当などを体験することにつきましては、貴重な経験と認識しておりますので、引き続き関係局と連携しながら、救急講話や職場体験等の機会を通じて、命の大切さを伝えてまいりたいと考えております。

要望 講和や見学だけではなく、他都市でも行っているジュニア救命の育成など、子どもたちでもできる実践的な部分も取り入れた形で消防局や地域病院、民間企業、消防団とも協力・連携し実施をお願いしたい。

かわさきスポーツパートナーとの連携について

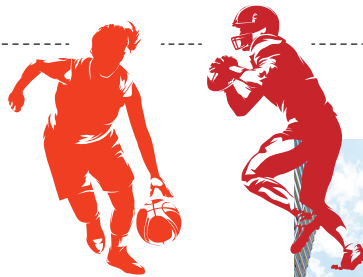
質問 スポーツパートナーが「スポーツのまちかわさき」に相応しい活躍をしていますが、市役所庁舎を利用した取組を含めて市民にその活躍をもっと周知し、レガシーとつなげていくべきと考えます。見解と対応を伺います。

回答 かわさきスポーツパートナーの活躍を広く市民に認知していただくことは、本市への愛着やシビックプライドの醸成に大きな効果が期待できるものと考えております。

スポーツパートナーについては、この間、市政だよりや市公式Xなどの市広報媒体を活用した広報のほか、リーグ戦優勝時における報告会や本庁舎のライトアップをはじめ、様々な取組を通じて、認知度向上を図ってきたところでございます。今後につきまして



▲市役所市庁舎、一階ロビー



も、各チームや関係部署と連携を図りながら、より多くの市民にスポーツパートナーの存在を身近に感じていただけるような取組について検討を進めてまいります。

要望 実現 本市は市政100周年を迎え、庁舎など多くの人が訪れる場所を活用して、普段見られないトロフィーやユニフォーム等を展示し、市ゆかりのスポーツや活躍する選手を知ってもらう取組をお願いしたい。

※川崎市役所にて、7月29日～8月9日までトロフィー展示実施
※中原区役所にて、7月23日～8月11日(日)まで懸垂幕を掲出



PROFILE

いど清貴(36歳)
1987年11月20日生まれ、中原区下小田中在住
拓殖大学卒業後、富士通グループに入社社員を経て
2023年4月施行の第20回統一地方選挙
中原区選挙区より挑戦、6,619票を獲得し初当選、
2023年5月より川崎市議会議員
会派：みらい川崎市議会議員団、環境委員会

いど清貴
きよたか
YES, I DO!



詳しくは
ホームページを
ご覧ください



LINEからも対話できますので
お気軽にご連絡ください。



LINE